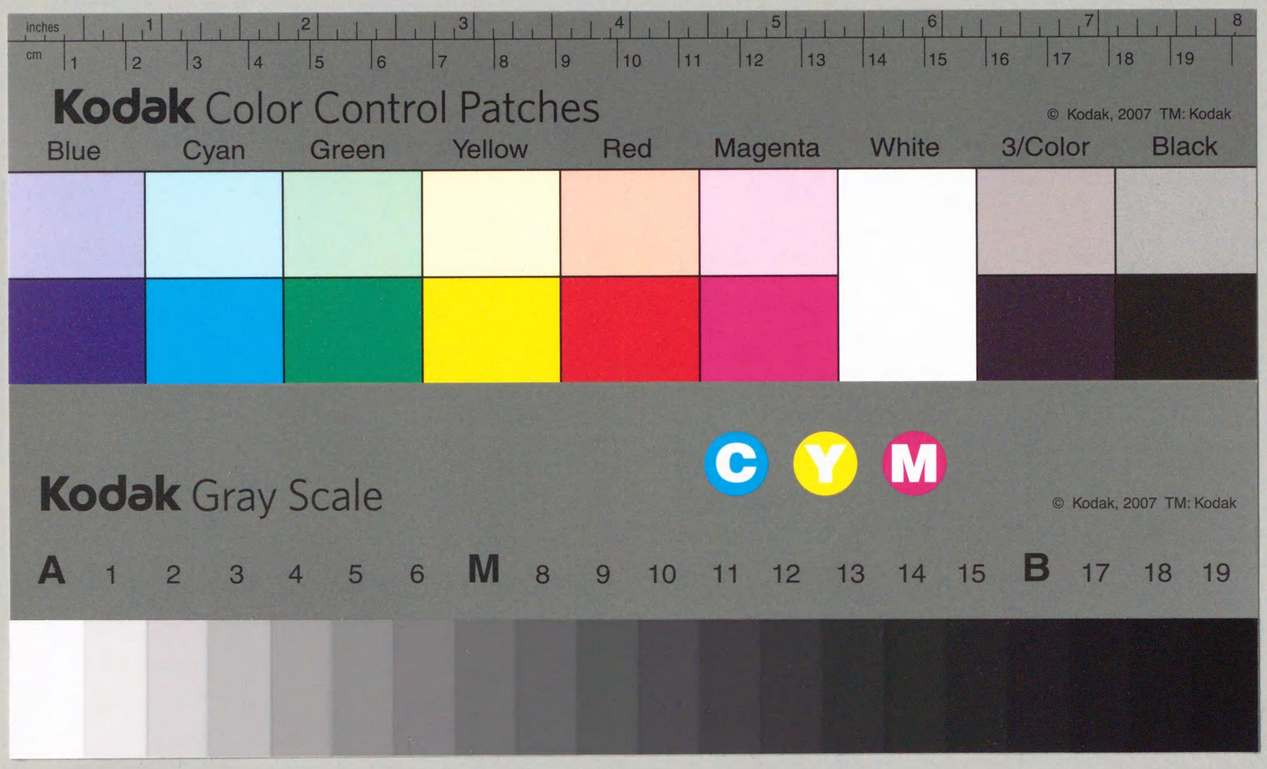

602.225
602.225
Sy957m
00735335
昭9
A
1388

昭9
A
1388
(1)

極秘
第二號

昭和八年三月

昭和9年4月12日
岩切主任殿寄贈

滿洲産業調査

（滿洲の産業概觀）

（其ノ一）

（代謄）

本パンフレットの寸法は商工省工業品規格統一調査會決定に係る「紙の仕上寸法規格」中のA列5番（148mm×210mm）に準據したるものである。

次官

商工省工務局

602.225
Sy957m

圖書館會
42.8.12
圖書館藏書

滿洲の産業概觀

目次

一、序論……一頁
二、滿洲産業界に於ける商工業の地位と工業概觀……三
三、交通運輸事情……七
四、金融其の他一般商業機構……一一
五、關稅、內地稅制其の他一般産業行政制度……二〇
六、工業經營要素……二四
甲、原料……二五
乙、燃料、動力……三一
丙、勞力……三三
七、將來に對する豫測と軍部の工業計畫……三三

735335

八、滿洲貿易事情……三八
九、本邦工業の利用し得べき資源……四三

黑龍江省

熱河省

奉天省

吉林省

里州滿
爾拉海
山克
爾哈齊齊
倫海
化綏
依蘭
倫索
溪爾哈
安桃
南桃
京新
嶺主公
屯家鄭
街平四
圖昌
原開
嶺鐵
林吉
化敦
延吉
雄基
羅南
天奉
順撫
台煙
湖溪本
陽澄
關山連
州綿
城海
子岡薄
城鳳鳳
口營
橋石大
背龍五
胡蘆島

熱
河
省
省
京新
嶺主公
林吉
化敦
延吉
雄基
羅南
屯家鄭
街平四
圖昌
原関
嶺鐵
天奉
順撫
台煙
陽遼
山
湖溪本
関山連
城鳳凰
背龍五
東安
子岡溝
城海
口營
橋石大
平蓋
城岳熊
店房瓦
州錦
葫蘆島
関海山
州金
大連
旅順
滿鐵線

立憲民政黨政務調査館

滿洲産業の概觀

（本書は昨年夏の滿洲産業視察に關し口頭復命に代へて歸朝直後叙述したものである。）

一、序　論

滿洲の商工業の實狀の詳細に付ては別途書面に認めて復命する事にして居りますが之は既に內地に於て文獻其他に依りて御了知になつてをる範圍を多くは出まいと思ひます、只若干アップツーデートであることゝ詳細な點にも渡つて數字等をも知る事が出來たと云ふ丈けで彼地に於ても最近事變後産業事情に付て特に新しく調査したと云ふ樣な點は未だ少いので全滿に渡る鑛物資源等詳細なる探査は依然として將來に殘されてあります、そこで私は正確な數字等の叙述はのきにして玆では大體滿洲の商工業界の現狀が彼地に滯在中如何に私共の主觀に映じたかと云ふ其の印象の一端を申上げて見たいと思ひます、從つて其處には多くのドグマがあらうと思ひますので其の點は充分に御訂正を願ひ度いのであります。

先づ第一に申上げて見たいと思ひますのは滿洲に於て活動されて居る各方面の方々が一體どんな考を以てをられるか滿蒙に於ける産業界の現狀乃至は將來に對して將た又日滿産業の關係に付て如何なる觀方をしてをられるかと云ふ事であります、私共は彼地に渡りてより出來る丈け各方面の多數の人

々に面會して意見を叩いて見る事に努めました、滿鐵當事者、軍部、商工會議所關係者、工場主、商人、官吏、新聞記者と凡ての方面を網羅して意見を求めました、而して是等の人々が滿洲の產業に對して觀察する立脚點が同一でなく相當其處に大きな對照を爲す幾つかの流れがある事を發見致しました、それは少くとも二つに大別する事が出來る樣ですが其の一は純然たる經濟的見地よりするものであります、今一つは國防的見地と云ひますか乃至は國防論を基調とする高等政策とでも云ひますか兎に角觀點を純粹經濟論に置かぬものであります、而して軍部關係方面が後者の代表者であることは申すまでもないことであります、或は人に依り併かく明白に意識し別を立てゝ云はれる方もあれば兩者を混同して議論される方もありますが要するに滿洲の產業界を吟味し檢討する爲には少くとも此の二つの立場がある事を明白に認識する事は極めて必要なる前提條件であると考へますので私は是等の事實を直接彼地に於て聞き取つた會話の節々を申述べることに依りて極めて具體的にすることが出來ることとは思ひまするが冗長にもなりまするし或は會話尻を捕へるかの如き若干穩當を缺くの嫌もあると考へられますので之は省略致しますが何卒私の意のある處を御諒察を願ひます、而して是等人々の立場によりて自ら意見を別にされる事のあるのは無理からぬ事柄であらうと思ふ、恐らく我國が將來滿洲を如何樣に取扱つて行くかと云ふ實際問題になるとやはり單純なる經濟論丈けでは到底行きかねるので必ずや多分に高等政策が加味されるのであらうし又必要でもあらうかと推察せられるのであります

が私は專ら玆では經濟的見地よりして滿洲の產業界殊に商工業界を批判して見たいと思ひます。

尙ほ一言附け加へてをき度いのは目下滿洲に於ては我關東軍司令部內に設けられてをる特務部に於て滿鐵會社の經濟調査會と連繫を保ち彼地に於ける產業其他經濟各般の事項に涉り調査研究を遂げ一々滿洲國政府を指導し援助してをられるのでありまして其間極めて緊密なる關係が保持せられてをる樣であります。

二、滿洲產業界に於ける商工業の地位と工業概觀

先づ私共の今般調査の對象である工業並に商業貿易が滿洲產業界に於て如何なる地步を有してをるかと云ふ事を一言して見たいと思ひます、それには私は滿洲國實業部總長張燕卿氏の演說を借りる事が一番宜しからうと思ふ。

「滿洲國の實業政策の大體の方針としては第一に農業、林業、鑛業其他一般の原料品の生產に主力を注ぎ加工工業は第二段として重工業にはあまり觸れぬ考である云々」

この言葉は張總長が大連へ出張の際なされたもので十月二日の滿洲日報に出てをる記事の一節であります、この簡單な數語は滿洲の實業行政の衝に當つてをられる人として滿洲の實狀を克く熟知せられてをる、流石は新興國の實業部行政長官であると私は滿腔の敬意を表するものであります、此の數

語の中に自から滿洲の全産業界はどんなものであるか商工業は其中で如何なる地歩を占めてをるものであるかを明白に物語つてをるものではなからうかと思はれます。

茲で事新しく申すまでもなく滿洲國と云へば誰しもの頭に映るのは其處は大豆の國であり高粱粟、玉蜀黍の稔る土地柄であると云ふ事であります、其處に居住する三千萬民衆の殆んど全部が是等の農作物に從事して衣食してをるのでありまして是等の農作物は彼等の日常の糧食として又燃料として使用せられ剩餘が日用品主として工産品に交換せられてをるのでありまして滿洲國輸出品の約七割（豆油、豆糟を含み）は是等の農產品であり鑛產、林產が若干之に附け加はつてをります、而して輸入品の殆ど全部は工產品であります、而して是等輸入工產品を人口數で割つて見ると支那本土などゝ比較しますと著しく多額になつてをりますが之は必らずしも生活程度の高低を示すものでなく滿洲國内に於ける工業の未發達を物語るものでありまして製造工業の如きは未だ滿洲に於ては其の地歩は云ふに足らぬものであります、工產額全體は約一億數千萬圓とか稱せられてをりますが之を農產品價格の約十億圓に比較するときは問題にはなりません、而かも其の一億圓餘の大部分が滿洲國内でなく實は關東洲から產出せられるのであります、更に之を我國に於ける工產額約七、八十億圓と對比するときは其間非常に大きな開きを示してをることを豫じめ御念頭に置いて戴く必要があらうかと思ひます。

滿洲に現存する工業の種類は棉糸紡績、柞蠶紡績、綿織物、絹織物、絹紬、毛織物、製麻、染色、製紙、セメント、板ガラス、ガラス器具、陶器、耐火煉瓦、普通煉瓦、油房、硬化油、副生硫安、爆藥、皮革、ビール、醬油、燒酎、酒、マッチ、煙草、製材、製粉、製糖、車輛、兵器、製釘、製鐵、オイルセール等が其の主なるものでありまして私共は是等各種の工業に付其の代表的なるものは殆んど洩れなく視察致しました、是等工業の中には地方的なる所謂性質上中小工業に屬するものと近代的大規模工業に屬するものと兩者があり其の經營の狀況が自ら同一ではなく地方的小規模工業の中には燒酎、醬油、酒等相當有利に經營せられてをるものもありますがそれら以外のもの殊に大規模工業に付て見ると最近金圓の爲替安と滿洲事變とに依り多少生氣を示さんとしてをる傾向もかすかに見えないではないが大體に於て殆んど其の全部が萎靡し振はざるの現狀にありまして創立以來減資につぐ減資を以てして猶ほ利益配當をば殆んどしたことのないもの丶珍しからざるはまだしも既に久しきに亙り煙を絶ちて徒らに尨大なる殘骸を横たへてをるものが少くないのであります、一般工業界の不振を極めてをるのは强ち滿洲丈けの問題ではなく我國も同樣でありまして一般的世界不況の影響を受けてをる事は勿論でありますが更に滿洲には世界的共通事情の外に特殊の事情があるのではなからうか、單に之を世界的共通現象なりとして簡單に片付ける事は出來ないやうな氣がする、私は今少しく根本的に滿洲と云ふ土地柄が果して工業を起す事が出來る適地なりや否やと云ふ事に付て則ち工業を起すに必要なる周圍の條件が果して備はれるや否やと云ふ事を吟味する必要がありはせぬかと思ふ、私には平素から考へてをる一つの獨斷がありまして之が此度滿洲の工業界を實地視察して實證され

たかの樣に思ひまして彼の地に滯在中私は本省關係課長にこう云ふ文句の事を通信致しました「凡そ工業と云ふものは產業界に於ける王者のやうなものではなからうか、といつても譯らないが例へば宴會の御座敷につく場合に萬事萬端の準備が出來上つて御膳は既に運ばれ了り御酌も列んで凡ての御客も席に着いて御箸を採るばかりになつてをる處へ後から悠々としてやつて來て一番上席の床の前の席に著く最上の御客のやうなものでなからうか、つまり產業界の機構が全部完備して交通なり商業なり金融なり乃至は關稅、內地稅制、其の他一般行政制度も完備した處でなければ發達しない性質のものではなからうか、殊に重要なことは其の製品に對して充分なる購買力が其の行政區域の版圖內に存在してをることであると思ふ」と云ふことであります。

丁度之と似た事柄で曾て曹達灰不當廉賣課稅問題に關しマカヂ曹達灰の正當價格を如何樣に定むべきかと云ふ實際問題を取扱つたことを想ひ出します、と云ふのはアフリカの山の中にあるマカヂ湖附近に於ては全然土地の消費がなく從つて國內價格と云ふものがない、已むを得ないから生產費から推して行つて米國太平洋沿岸に產するものと同樣の價格なりと推定しやうではないかと云ふ事になりましたが米國と阿弗利加の山の中とでは文化の度が違ふ勞銀等も安いから米國より下値に見做すべきものではなからうかと云ふ議論がありましたが、その時に私共は言ひました、それはあべこべに云ひたい、と云ふのは阿弗利加ではモーター一つ買ふにも國內にては手に入れられないし又生產品を市場へ持ち運ぶには特別の交通機關を作らなければならぬ、又職員の宿舍なり衞生施設なり全部を別に初めから作らなければならないし少くとも生產原價はこんな土地で相當高くかゝるものと看なければならぬではなからうかと云ふ議論をしたことがあります。

斯く單純な工業政策の第一頁に書いてあるやうなことを仰々しく申上げ又時間をつぶすのは恐縮ですが滿洲の產業界に關して多少巷間誤つた報導が傳へられてをるやうに見受けますのと、又一面には之は同時に滿洲國に於ける國內商業事情其他一般經濟事情を一應御了知を願ふことに役立つものであると思ひますから以下順を追つて少しく述べさして貰ひます。

三、交通運輸事情

第一に交通運輸の事情は如何、滿洲部內の產業開發なり乃至は國際市場として今日あらしめたことに付て鐵道並に港灣等の交通機關が如何に重大なる役割を爲したかと云ふことに付ては縷々申上げる迄もありませんが然らば是等交通機關の發達の現狀は如何及び近き將來に於てどんな變化してゆくかと云ふことを簡單に申し述べますと、我國の面積は今日僅かに六千粁しかない、之を面積當りにして見ると百二十方粁に付〇・五粁と云ふ數字を示し之を我國に比較すると最も發達の遲れてをる北海道の約六分の一に該當する、併かも其の中半分弱は東支鐵道に依りて占められてをる、之は御承知の通り實質上露國側の管理の下にあるので見方に依りては該鐵道は滿洲の產業上の見地よりするときは無くもがなのものである、全然他線との協調を缺き

全く露國本位の見地よりして料金其の他規定せられてをつて南滿貨物を北滿に通し又は北滿貨物を南滿に運ぶ事は不可能の實狀にある、大阪から長春迄の運賃と長春から哈爾賓迄の運賃とを比較すると物に依りては長春、哈爾賓間乃ち東支鐵道の運賃が高いと云ふやうな事情になつてをる、あまりめちやに高いので冬季になると地面が凍るのを利用し馬車を曳いて長春、哈爾賓間の貨物を運搬すると云つた調子である、自動車が相當長距離輸送に付ても汽車の競爭物であると云ふ事を聞く事はあるが斯程長距離にわたつて馬力が汽車の競爭相手になると云ふ事は世界にその類例を見ない所でありませう、斯く冬になると馬車競爭が起るから最近では冬季丈けは汽車賃を若干引下げて馬車賃よりは少し下の處に極めると云つた具合であります、尤も今後は新政府に依りて滿鐵と協力して東支鐵道を去勢するやうな數個の新線を敷設計畫中でありましてその完成後にはその弊は緩和されるだらうと思はれますが之には相當の資金を要する事でありまして併かく短時日の間に實現を見る事は困難でなからうかと思はれる、目下工事中のは吉會線（明春三月中に竣工の豫定）海倫・克山間をつなぐ線（今年中に竣工）哈爾賓と吉林の東とをつなぐ線（明後年位に出來上がる）があり、又朝鮮國境の延吉から牡丹江に添つて依蘭を結ぶ延依線は來年より着手する事になつてをる、又道路は如何と云ふと將來五年計畫にて經費七千五百萬圓を投じて開設する豫定にはなつてをりますが今日に於ては皆無であると稱しても差支ないのでありませう、匪賊討伐の困難なのも之が爲で、先日の新聞では日本にて道路公債を募るとか云ふ記事があつた、次に港灣は如何、之は東洋隨一を以て誇る大連港があります、又營口、胡盧島、安東等の港もないではないが之等港灣は何れも版圖の一方に偏してをつて背後地との距離が相當に遠い、御承知の通り滿洲は海岸線の非常に短い處であつて貨物を運搬するには割高なる陸上運賃を多額に支拂はなければならない不利がある、併かも性質上割高な陸上運賃就中鐵道運賃の如きは日本などゝ比較すると相當に高いのであります。

先に申述べた北鮮羅津港へ繋ぐ所謂吉會鐵道の建設を急いでをるやうであるが鐵道は出來ても港灣の建設には尙ほ相當の年數を要するやうであり（當分三百萬屯能力三千萬圓、將來一千萬屯一億圓）之が出來あがつた曉は北滿の貨物の運輸は從前よりは距離は短縮せられ大分便利になるでありませうが果して運賃が距離の短縮せられた丈け低減せられるやと云ふと之は必ずしも併かく簡單には行かぬやうで、大體の豫想は寧ろ否定的に考へられてをるやうであります、と云ふのは新規に出來る鐵道や現在の滿洲國内の鐵道は東支鐵道を除き全部滿鐵に委任經營をさせることになつて居る樣でありますが現在滿洲國内の鐵道は延長哩數は滿鐵線と比較すると二と一との（二千キロと一千百キロ）割合でありますけれども運賃收入は逆に一と三との（三千八百萬元と一億二千萬圓）割合になつてをる、滿洲線は併かく運賃收入の少い線で何れも今日迄はペーしてない線ださうであります、是等の線の委託經營を引受け且つ新線は一應滿鐵が引受けて敷設する事になつてをる、その額は一億四、五千萬圓にも

なるし外に現在一億一千萬圓の貸があるからして、その中に一つ位有利な線があるとしても滿鐵側としては之を一括して運賃を定めなければならない、一つの線丈けに付個々に運賃を定める譯にはいかぬ、失ふ處は一、二有利な線で補はなければ全體としての收支が採れなくなるのみならず滿鐵としてはもつと大きな問題が一つ引かゝつてをる、それは滿鐵本線との關係がどうなるかと云ふ事でありまして吉會線は主として軍事上の必要とか吉林材の搬出とか或はゆく〳〵は浦鹽向貨物を大部分取入れるとか滿鐵本線との間には自からの分野はありませうが差當り若し滿鐵本線と吉會線とを同率の運賃で極めることになると距離の上から云つても公主嶺或はもつと南へよつて四平街位迄の貨物は全部吉會線に吸收せられてしまうことになるので此の點に於て滿鐵本線の收入は相當大なる打擊を受けねばならぬ事になるからして、かたがた吉會線が全通し羅津港が出來上つたとしても併かく運賃の低減を期待する事は困難ではなからうか、現に南滿に於ては大連、營口、安東の三港間に於て特定基點から同一運賃制度つまり一番距離の長い大連と比較的近い安東や營口の運賃と同額にすると云ふことが以前から喧しくて私共が居た折にも該問題が再燃し滿鐵社も遂に該制度を採る事に極めたと云ふことを聞きましたが、やはり之と同じやうに、ある地點例へば長春とか吉林とかを基點として吉會線と滿鐵線との間に類似制度を建てるのではなからうか、從つて距離の短縮した程には運賃は低減せられないことになるのではなからうかと思ふ。

四、金融其の他一般商業機構

後で滿洲の海外貿易事情に付ては改めて申し述べたいと思ひますが玆では簡單に工業經營の外部的條件の一として滿洲の金融其の他一般內地商業機構の一端丈けを申述べて見たいと思ひます。

先づ金融事情から初めますが金融機關としては外國人系（日本人を含む）並に支那及滿洲人系のものが相當多數に上つておりまして、（日本側一七其內滿洲に本店を有するもの二二、外國側一三其內滿洲に本店を有するもの四）其數に於ては決して少しとはせないのでありますが外國人系統のものは主として商業金融卽ち特產物賣買の爲の金融に當つてをるのでありまして工業金融は著しく梗塞してをると云はれてをる、と云ふのは朝鮮銀行や其他の銀行や東拓や滿鐵なども相當に融資したことがあるが何れも成績が思はしくなかつた、滿洲に於ける金融事情の特質として貸出と預金との割合にバランスが取れていないで預金の率が少いが之は一面には過去に於ける不良貸付の回定せる事を物語るものとも見られる、之は大戰後の不況の爲などもあつたが中には一攫千金を夢みた無責任の徒も比較的多かつたので銀行が滿洲工業に對する不信用と云ふ事や銀行が工業以外に好投資對象を有してをる、則ち特產商が高金利も厭はず資金を大量に需要し而かも其の擔保が確實なる商品であるから何も好んであぶない工業金融をなす必要なく從つて工業資

金は常に缺乏し勝ちで金利は騰貴する、又工業投資は擔保物處分に付滿洲は市場が狹い丈けに一層困る、從つて極めて低く評價して貸す外はない、而して一面に於ては後でも述べるが滿洲に於ける販賣組織の不完全から信用ある問屋仲買人に現金取引が出來ないので出張所で販賣するとか直接小賣人に賣ることになる、而して支那人は一般に長期信用を好む爲に資金の回收が遲れるのであります、以上のやうな事情からして外國人殊に日本人經營の工業は何れも金融事情には惠まれていないやうであります、之に反して滿洲側のもの殊に省立とか張學良一派の特殊銀行は普通銀行業務をもやるにはやつたが寧ろ一の投資會社のやうな仕事をやつてをつたのでありまして支那側工場の目ぼしいもの丶大部分は是等支那側金融機關の投資を受けざるものなしと云つた形であります、寧ろ事業を直接やつてをつたと云ふ方が適當かも知れぬ、中央銀行に併合された東三省官銀號、吉林省永衡官銀錢號、黑龍江官銀號及張學良の邊業銀行の四行の從業員に就て見ても銀行業務一、九〇〇人、附屬事業三、五〇〇人と云ふが如く銀行業務以外の方に多數の人員を置いてをつたのであります、今日では是等の中張學良一派の出資は所謂逆產と稱して新國家に於て悉く沒收を致してをります、又工業投資の外に大豆其他特產物の買入販賣等の商買も直接やつてをつたのでありまして、支那側特殊事業は背後に是等特別の金融機關を持つてをりました、而して是等背後の金融機關は何れも紙幣發行權を持つてをつたので盛んに紙幣を濫發して右に述べたる工業投資なり特產買入れの資金なりに充當したのであります、而して是等の紙幣の發行には特殊の紙幣を除き大部分は準備銀の設置がなく只の印刷代と紙代とのみによりて無制限に發行せられたのでありまして其の正確な數字は分からぬが奉天票は一昨年三月三十億、元吉林官帖及黑龍江官帖は夫々四十億吊と稱せられ、初めは銃殺までして紙幣の發行價格を維持しやうとしたが固より其効果なく是等紙幣の購買力は發行高に順應して下落し滿洲の金融界は亂麻の如く事があります、此の外に農會、商務會、銀爐等公私團體及び個人で發行する私帖も雜多にありまして農民の如きは受け取つた札で必要なる品物に取替へやうと云ふ時にはその購買力は半減も三分の一にもなつてをると云ふやうな始末で、之が舊軍閥政府の深刻なる搾取の一つの手段でもあつたのであります、是等雜多の官私帖は夫々其の流通區域なり用途なりに自然に制限がありました爲に又前にも述べたやうに各種紙幣間に於て價格の比率に絕えず變動を來してをつたが爲に紙幣の國內送金の如きも外國爲替の觀を呈し爲替料も從つて頗る高率であつた、又一面には是等各種の紙幣の兩替をやる營業が滿洲に於ては特に顯著に發達して取引所の如きものまで幾つも出來てをるのであります、新政府になりましてから發券銀行中前に述べたる四行を打つて一丸として七月一日より滿洲國中央銀行を設立し、從來發行せられたる官帖十二種類に付中央銀行の發行に係る新紙幣銀圓との間に於ける價格の比率を一定し滿洲國紙幣相互間に於ける價格の變動を阻止すると共に私帖一百餘種に付き發行を禁ずる

と共に流通をも許さゞることゝしましたので從來の弊害は大いに矯正せらるゝことゝなりましたが因襲の久しき之が全國に徹底する迄には尙ほ將來相當の年月を要するものと思はれます、滿洲國中央銀行は資本金三千萬銀圓、滿洲國中央銀行法及同組織辨法によりて設立せられ政府持株以外民間株主に對しては年六朱の配當補償をなしてをるのでありまして、貨幣法に依り滿洲國政府の有する貨幣製造及發行の權能を代行してをる。

發行制度は比例準備制度を採り紙幣發行高に對し三割以上に相當する正貨準備をなすものと規定してをる、尤も兌換に關しては貨幣法中正文はない、開店後多少は求めに依りて兌換に應じた事もあるさうだが不換紙幣に慣されてゐた關係もありませうし兌換の請求はあまりないさうです、只如何にして新貨幣の對外價値乃ち爲替相場を維持して行くかと云ふことですが、之には相當の苦心をしてをられるやうで今日迄の處では若干上海向爲替の賣却等滯申市場を利用して調節を取り大體順調に經過致してをります、將來或は爲替操縱資金を日本又は上海等に置くとの說もあります、因に七月一日現在に於ける紙幣發行額則ち新政府に於て承認したる十二種類の舊官帖流通推定額を新紙幣との換算比率に依り換算したる額は一四三、八八一、九七一銀圓にして之に對する正貨準備は八一、四五二、三三五圓にして五六・六%に相當する、尙ほ滿洲國通貨に付特に附言すべきは滿洲國側幣制は右で一應型は着いたが滿洲に流通する貨幣は是等滿洲國側紙幣のみならず皆樣御熟知の通り正金銀行の發行してをる鈔票と朝鮮銀行の發行してをる老頭兒券とが相當多額に上つてをりまして朝鮮銀行券の如きは約四千萬圓見當と稱へられ滿鐵附屬地內及外國貿易には主として是等日本側紙幣が用ひられてをるのでありますす、鈔票の如きも簡單には兌換に應じないのでありますがそれでも滿洲人間にも信用が厚く相當之を死藏してをるものもあるさうであり滿洲國中央銀行の準備金等にも用ひられてをります、斯く今日でも三種の主要貨幣が流通致してをりますがその間最も面倒なのは滿洲國幣及鈔票が銀系紙幣たるに對し朝鮮銀行券は金系紙幣であり今日では日本銀行券と同樣全く不換紙幣である關係からして其の相場は銀塊相場の變動以上に日々に大きな動きをしてをるので從つて是等金銀系兩紙幣間に於ての相場の比率は日々に激しく動搖を來してをる、從つて是等金銀系兩紙幣間の變動する相場の標準を公定する爲乃至は相場の變動に因て生ずる損失の危險を除く必要上前に述べたる雜多の銀系紙幣相互間の取引の爲のみのものゝ外に特に金銀系兩紙幣の現物及先物の取引を行ふ貨幣取引機關が發達し大連を初めとして奉天、安東等に取引所が設置せられてをります、大連取引所に於ては鈔票を金圓建で取引致してをりますが、私共が當初滯在してゐた八月中旬に於て一日の出來高は四千萬圓を突破してをりました、十日で四億圓、百日で四十億、五年、六年の取引高は年二十億見當でありましたが昨今の取引の旺盛なること實に驚くべきものがあります、而して斯く盛んなのは或は日本の金圓の日米爲替は二十弗とか十五弗とかゞ目標だと云つた調子でめちやくちやに鈔票の買煽（卽ち金圓賣り）をやる、上海

や紐育の銀相場と均衡が取れてをるや否やも考慮に入れずに猪突してゆくものだから大連では何時も銀高の金圓安になりたがる、そこへ所謂大連マーチャントが介入して各地の對日相場が續落するといつた具合で日本の爲替相場の下落に一層の拍車をかけるものだと論じてゐた人もありました、少し横道に這入りましたが要するに金票と銀票との相場の變動が激しいと云ふ事は滿洲に於ける商工業をして投機化せしめるものでありまして特に日本側の商工業者に取りては其の受くる處の影響が重大であり小資本では克く事業を續けて行く事が出來兼る實情にあります、一面から見れば之こそ商人の一番甘い汁を吸ふ事が出來る妙味のある處だとも云へるかも知れませぬ、事實大豆の如きは滿洲の相場は年中大部分は倫敦市場に比し逆鞘を呈してをる大連の方が高い、從つて普通なら高い所で買つて安い市場へ賣るのだから年中儲かる理屈はない筈だがそれにはやはり船運賃の動きとか爲替の變動を常に利用してやつてをるやうである、滿洲國が新規幣制を審議するときに金本位制にするか銀本位制にするかに就ては相當に議論があつたやうで、關東洲の幣制のときにも相當論議された事のある問題ださうでありますが結局銀本位を取ることになつたのは少くとも永年の慣行に改變を與へぬやうにと云ふ事や金準備の調達の困難な事やが恐らく一番重大なる理由であつたことでせう、又支那人は元來銀を愛好する國民性であるとか云ふ事だつたでせう、併し一面から見ると永年の慣用が銀であつたとか銀を愛するとか云ひますが滿洲では前に述べた通り通貨の亂脈からしてグレシャムの法則通り良貨は驅逐せられ事實硬貨などは殆んど都會などでは流通しては居やしない、皆何々大洋票とか何々官帖とか云つた札丈けが流通してをる、貨幣制度の基礎として銀塊は銀行の金庫の中には多少あつたやうですが又民間に多少の死藏されてをるものもありませうが三千萬民衆の大部分は銀貨など目に止まる事はなからうかと思ふ、安東には鎭平銀と云ふ馬蹄銀があるが之も取引所で取引される寧ろ商品として取扱はれてをる程度のもので或は擔保として扱はれるもので貨幣として市場で流通してをるとは認められない、而して從來滿洲に於ける札の購買力は種類に依りては銀塊相場によりて左右されて居たものもあるが大部分の札は銀塊相場とは懸け離れてもつと大きな他の原因から其の購買力は動いてゐた事實は前にも述べた通りでありますから、あながち前に述べたやうな理由丈けで銀本位制度たるべしと云ふやうな結論が當然には起つても來まいが、より合理的な說明の仕方としては或は世界の多くの國が就中日本が今日形式上金本位とは云ふものゝ兌換停止をして事實金本位でも銀本位でもない變態時に强いて金本位制に代へる丈けの必要もないと云つたやうなことではなからうか、若し日本の金本位制が事實確立して居たとすれば滿洲國も之に則り所謂日滿經濟統制も之によりて最も根本的に最も好都合になし遂げられたのかも知れぬ、兎もあれ將來は必らずや日本と同樣の制度になるべきものだと特務部邊では云つてをられるので法律中にも正貨準備としては銀のみならず金をも加へてをるのみならず中央銀行は純益の百分の二十以上を積立て金塊、外國金通貨又は金勘定の預け金として保有せよ

と規定せられてをる處を見ると將來金本位に轉向する用意が窺はれる、今日日滿兩國の貨幣制度が違ふ爲に色々とトラブルを起してをるやうである、先般航空會社を作るときにも資本は滿鐵と住友とが現金出資をなし滿洲國は飛行場等現物出資をなしたが運賃を銀圓で建てるか金圓で建てるか滿洲國貨で經理するか日本國貨で經理するかに付て大分議論があつたやうだが之も到頭銀圓で經理しやうと云ふ事に落付いたとか云ふ事である、又鐵道運賃に就いても滿洲國內の鐵道を圓建にするか銀建にするか之も亦大きな問題として未だに殘されてゐるやうである、經營を委託される滿鐵は金圓資本でやつてをつて今でも金圓建料金を取つてをる、而して同じ國內で同一主體が一部分は銀圓建でやらねばならぬと云ふ事になると中々經理が複雜だらうと思はれる、時には勘定合つて錢足らずのやうなことが起り得る。（序に東支鐵道は金留建でやつてをる）

金融事情に就ては概略以上のやうだが、其の他內地商業機關として特產物の取引所が大連を初めとして各地に存在し相當の機能を發揮してをるやうであります、又倉庫業も滿鐵經營にかゝる大豆、豆油、豆糟、小麥等の混合保管制度の如きは特殊の發達を遂げ特產物取引に著しく便宜を與へてをりまず、主として支那人側の經營にかゝる糧棧とて倉庫業、問屋、宿屋、金融業を兼ねたやうな制度が各地に存在してゐて之又特產品取引機關としては重大なる貢獻をなしてをります、元來滿洲國は最初に述べたやうに今でも純然たる農業國でありまして滿洲國の內地商業も特產物たる農產品の取引を中心

として發達したもので該方面に於ては相當の發達を遂げてをるので三井、三菱等の邦商も主として特產品の取扱のみを主業と致してをりました、最近は少しく砂糖、小麥粉、雜貨類等外の品物にも手を出すやうにはなりましたが其の他では東洋棉花が綿糸布の取引をなしてをる位が顯著なものでありませう、外國商も亦特產品の取扱が主でありまず、ワツサルト商會の如きは實に一手に滿洲大豆の二六%を取扱つてをります、（因に三井、三菱は併せて二四%を扱ふ）是等特產物の取引を除いては滿洲の商業機構は發達極めて幼稚な狀態にありまして取引所の如きも大連、安東に株式商品取引所があり、株式、綿糸布、麻袋、麥粉、砂糖、柞蠶糸、蠶等を取扱つてはをりますが其の數量も極めて微々たるもので取立てゝ云ふ程のものではなく、工業原料の購入等に付ても取引の迅速とか品質數量其他欲する處に從つて買ひ得ざる不便があり、機械器具の如きも外國から一々輸入するを要し多額の運賃手數料等を拂はねばならぬ。

又製品に付ても販賣機關が不充分で信用の出來る問屋、仲買人等を見出す事が困難な爲に直接に販賣所を設けて小賣までもやらねばならぬ不便がある、私は此の間の消息を滿蒙毛織の一例を申上げる事に依りて充分御諒察下さる事が出來るだらうと思ひます、該會社は奉天の郊外にあり大正七年末資本金一千萬圓、拂込資本五百萬圓で創立せられたるものでありますが爾來業績頗る不振にして目下では資本金は五十萬圓、拂込三十二萬五千圓に切り下げてをり（外に東托貸下三百五十萬圓）主として

滿洲産羊毛を原料として毛布その他の毛織物の製織を營みてをりますが年生産額約二百萬圓見當の自家工場生産品を賣捌く爲には滿洲部内に丈けで十數ヶ所の直營販賣所を設けてをるのであります、其の經費たるや無論相當の多額に上つてをるものであらうことは想像に難くないのでありますが何故にかく迄に多くの出張所を設けなければならなかつたかと申しますとそれは極めて簡單である、誰も製品を取扱つて捌いてくれ手がなかつたから止むを得ず作つたのだと云ひます、最近に至つては漸く三井物産あたりで其の製品を取扱ふやうになつたさうであります、又原料毛の如きも社員を夫々各集散地に派遣して買ひ求めさせると云ふ始末であります、之に依りて滿洲に於ける一般商業機構の全斑を窺ひ得るに充分でなからうかと思はれます。

五、關稅、內地稅制其の他一般產業行政制度

次に關稅其他行政制度に付て述べて見たいと思ひます、滿洲國の關稅は御承知の如く支那の關稅制度をその儘採用致してをるのでありまして、支那が先年關稅自主權を得て以來相當高率に改正せられた點もありますので物に依りては著しく高率になつてをるものもあります、殊に金孫單位と申しまして銀の著しく下落した際に金單位にて換算して徵稅する事に致してより一層高率になつてをるものもあるのでありますが然し大體論から致しますれば支那本土の事情よりして出來上つたものでありまして必ずしもそれは滿洲の實情に則したものではないものかも知れません、該現行關稅率が直ちに滿洲に於て工業を保護助長し得るに充分なりや否やは尙ほ相當の研究を要する點がありはせぬかと考へられます、のみならず私は後で論及して見たいと思ひますが根本論としては滿洲に於ては主義として工產品關稅は財政關稅限度に止むべきものであつて高率なるものに付ては財政の許す限りは速かに低減するのが至當ではなからうかと考へられます、尙ほ滿洲國には外國に多くその例を見ない輸出關稅が依然として存在してをる事は輸出品工業の發達に對して重大なる障碍となるものなること並に過去に於て相當密輸入の多量に行はれたる事實等は大いに注意を要する點であります、(第九章參照)序でに私は關東州自由港制度に付ても一言論及し度いと思ひますが、元當地域を自由區域に致しましたのは仲次貿易を盛にやろうと云ふ所から發端してをるのではなからうかと考へられますが、今日迄の實蹟に付て見ても關東州が事實何等仲次貿易港としての機能を發揮致してをりません、又近き將來に於ても關東州が仲次貿易港として發展するの見込ありや否やと考へて見ましても香港なり上海なりの勢力を茲に奪つて來る事が俄かに出來さうな樣にも見えない、して見ると關東州自由港制度の結果として今日殘つてをる事實は產業的に見て猫の額みたやうな一小獨立國であると云ふことである、國內丈けの消費を目標として工業を起すとすれば殆んど何一つとして工場らしい工場が出來得べき筈がない、處が現實滿洲の工場の過半は此處に集まつてをるのであるから相當の工產額があるが之を捌く爲には必

ずや滿洲國なり支那本土なり日本なりに輸出する外はないが其處は凡て關稅障壁で閉されてをる外國である、此の關稅障壁を超えてその本國品なり外國品なりと競爭するには餘りにすべての條件が惠まれてゐない　勢ひ所謂關東州特惠關稅制度にたよりて日本內地へ持つて來る位が唯一の捌け場だと云ふ事になる、日本內地では山東の苦力を使つて作つた品物を日本人勞働者の犧牲に於て其の他の理由からして併かくおいそれと入れてはくれない、綿糸紡績で今でも問題を起してをるが關東廳側では特惠品目の擴張を次から次へと希望してをられる、今度私共も亦聞いて來た、夫れは大概は日本內地の既存工業と衝突をする品物である、之が關東州自由港制度の現實である。

若し現在のやうに關東州工產品を日本に特惠して輸入すべきものだとすれば何も關東州を自由港制度にしてをく必要はなく朝鮮、臺灣と同樣に日本の關稅區域の內に入れてしまへば手數も省けて宜しいが、私は寧ろ關東州の工業は性質上滿洲を背後地として市場として持たなければならぬものではなからうかと思ふ、卽ち滿洲で出來る原料品に就ては輸出稅も免除してもらつて又關東州の製品は無稅で滿洲國內に輸入せらるゝやうにするのが本筋の樣に思はれる、幸に今次の滿洲國の成立を機會に當然さう云つた樣な制度に出來ることなら改善せらるべきものではなからうか、或は此際根本的に自由港制度に改革をなすことが出來ないとしても、せめて大連海關協定なり關東廳稅關規則なりに多少の修正を加ふることに依りても目的の一端は達することが出來るやうにも思はれる、之が關東州の現存

工業を生かす最善の道であり又投資家の立場からしても之等と重復して新たに滿洲國內に起業することは考へものだと思ふ、尙關稅制度に關連して奉天、長春、ハルピン等に保稅倉庫を新設して日本より輸入貨物に便宜を與へよと云ふことが數年來日本人側に依りて唱へられてゐる、既にハルピンには露國商品に對しては該制度が設けられてゐる、實現せば日本側にとりては慥かに好都合であるに相違ない、關稅制度の外に滿洲國內に於ける一般內地稅制は過去に於ては舊軍閥の所謂苛斂誅求を受けてをつたので出產稅とか銷場稅とか油粮稅、葭稅、中江稅、鑛稅とか是等は必ずしも工業關係のものばかりではないが、稅の種目丈けでも多數に上つてゐる、新國家に於ては相當是等稅目に斧鉞を加へて少くしたやうであるが財政上の都合もあらうから俄かに輕減する譯にもゆくまいと思はれる、只滿鐵附屬地に於て企業する場合には公費は相當に低廉で之が爲には滿鐵社が年々約二千萬圓計りの不足補塡其他積極的產業助長の爲に支出致してをるのであります、例へば土地の地代の如きも一坪年四、五錢とか云つたやうな低い處で貸しつけてをるのもあつて、此の點に於ては相當有利であるべき筈でありますが附屬地で生產された品物が附屬地外へ這入る時にはやはり一種の內地關稅のやうなものを取られることになつてをつたのであります、若し日本側で條約などを盾にとつて拂はないと云へば買ひ取つた支那の人からとる、斯んなものは或は正式にはとりにくいかも知れぬが滿洲國財政上の都合もあつて今日でも支拂つてをるが之亦已むを得ないかも知れぬ、滿洲國の新年度豫算は歲出一億一千

萬圓と云ふことだが右のやうな財源までを加へても尙ほ歳入の不足を示してをる。

以上の外或は工業所有權の保護とか或は度量衡制度とか直接產業と密接の關係ある色々の行政制度の項目を擧げ得るでありませうが、要するに是等すべての制度は過去に於ては勿論のこと今日尙ほ混沌たる狀態にあると云ふ外はありません、就中工業發達の爲めばかりではありませぬが一國治安の維持と云ふ事は之れ絕對的必要なる條件である事は申述べるまでもありません、而して滿洲國の治安が過去に於ても併かく安全なものではなかつたが又現在に於ても近き將來に於ても簡單に望むがまゝに進行して行くかどうかは、皆樣の御想像に任せます、私共の旅行も之が爲に相當に能率を殺がれました。

六、工業經營要素

以上述べ來つたやうな土地柄に於て產業經濟界の所謂王者が席に着く爲には餘りに準備の出來てない場所で、工業が發達しなかつたことは自ら理の當然でありまして何も不可思議はない、私は之を單に世界的不況といつたやうな呑氣な說明丈けで片附けることの出來る問題ではないと思ふ、否世界的不況の始まらない以前からして前にも一言したやうに嘗て滿洲には工業界の榮へた時期といつてはなかつた事實がもつと明白に之を證明してくれるかも知れぬ、尤も如斯環境の下に於ても卽ち是等外部的條件が惡かつたとしても直接の工業經營要素たる原料の獲得、勞力、動力、燃料等の供給に於て特に惠まれていて外部的條件の不利を補ふ程の事情が若し存在していたとすれば自ら別の結果を作り出すでありませうが果して然らば此等の直接要素は如何少しく具體的に之を吟味して見る必要がありませう。

甲　原　料

原料に付て見るに機械工業の如く滿洲內には一オンスの鋼材をも供給出來ないものもあるが、兎に角多少でも滿洲內に於て今日獲得出來るものとしては油房業に於ける大豆、硬化油工業に於ける大豆油、製粉工業に於ける小麥、毛織物工業に於ける羊毛、綿糸紡績工業に於ける棉花、製紙工業製材工業及燐寸工業に於ける木材（蘆及高粱の莖）、セメント工業に於ける石灰石、重油工業に於けるオイルセール、製鐵工業に於ける鐵鑛、製糖工業に於けるビード、絹紬工業に於ける柞蠶糸、煙草工業用葉煙草、製麻工業用麻、ビール、醬油、燒酎等釀造工業用小麥、高粱、大豆、皮革工業用獸皮等でありますが、是等工業用原料も一々仔細に研究すると數量が不足だとか品質が惡いとか或は價格が高いとかで將來に於ては相當改善されるものもあらうが少くとも過去及現在に於ては多くは有利な條件を備へていないのであります。

(イ)　大豆が滿洲の特產物として全世界に供給されていることは申すまでもない事で、從つて數量に於

ては極めて潤澤であるが之は先にも一言したやうに何時も逆鞘を呈し歐洲諸國の大豆の輸出先で却つて比較的安價に大豆を原料として使用することが出來るので醬油の如く地方消費を目的として作られる場合の原料としては格別世界的商品たる大豆油や豆糟の製出を目標とする油房工業用原料として滿洲に於ては事實採算不引合で滿洲全土に油房の數は實に四百五十の多きを數ふる程に隨所に存在してはいるが、八月頃私共渡滿當初に大連では三泰油房等數ヶ所で作業を小規模にやつてをつたのを見たが歸へる頃には全滿一つも作業している處はなかつた、只安東に一つ小さい油房が仕事をしていたが之は安東港から輸出すると艀舟賃が馬鹿に澤山かゝるので大豆の儘ではどうしても販けないとかで腐らす譯にもいかずやつてをつた位のものである、斯く不況なのは恐らく原料高丈けの關係ではなく漸次肥料としての豆糟の需要が世界的に減じつゝある關係もありませうが一面には現在滿洲で行はれてゐる油房と云ふのは極めてプリミチーフな遣り方で油部分も決して全部抽出する譯ではないので、加工業と云へば加工業だが實體は豆問屋が大豆を賣買する一つの手段方法に過ぎないものと云つた方がよいかも知れぬ、三泰油房の如きも三井物産が大豆賣買に隨伴してやつてをる仕事であります、滿鐵あたりでは油房も現狀のやうな遣方ではいかぬ、もつと技術的に改良を加へて添加價値を高めなければならぬと云ふので アルコール 抽出法などを考究してをられますが今日では未だ研究時代を出でない。

(ロ) 小麥の生産だが、之も醬油の原料位としてなら不足もしまいが製粉原料となると之又世界的商品でその價格は決して滿洲の作柄などでは極まらない、カナダや米國などの市場で全然滿洲と無關係に極まるので作つて見ても思はざる採算はづれに遇ふの危險がある、のみならず天候に支配される事が多いので粟などの方が有利であるらしい爲に南滿方面では嘗て作つたこともあるさうだが今日では百姓が充分に作つてくれぬ、供給が甚だ不安定なので南滿地方に於ては今日大きな製粉工場が鐵嶺、奉天、長春等に幾つも枕を並べて休んでをる、北滿地方に於ては運賃關係で外國粉が入りかねる都合もあり相當小麥の生産をなしてをるが本年は水害の爲に收獲約半減し併かも品質が惡くて粉にはなりかねると云はれてをるので此處でも製粉工場は繁昌していない。

(ハ) 棉花に至つては其の產額は極めて小量であつて關東廳や滿鐵でオバーランド種などを移し增殖することに付て相當に研究もし助成もしてをられるが今日の處では遼陽の滿洲紡績や奉天の紡紗廠などでも原料棉は大部分外國產を高い運賃と輸入關稅（一俵當り四圓六、七十錢）とを拂つて大阪あたりから買つている始末で將來は兎も角現在までゞは中綿用程度の產額に過ぎない。

(ニ) 滿洲產羊毛は品質が極めて粗惡でそれ丈ではろくな毛織物は出來ないし羊の數も未だ少く併も一頭當り羊毛採取量が極めて少いので從て生產數量も多くはない、滿蒙毛織では外國原料を使ふには輸入稅其の他高いものになるので採算不引合の爲滿洲產を大體八割位まで使つて敷物や毛布位を作

つてをられるが之ばかりでは仕事にならぬと見えて最近日本よりサージ等の生地を入れて加工して賣出してをる。

(ホ) 製紙、製材、燐寸工業原料としての木材の蓄積は未だ相當多量に殘つて居るものゝ樣ではあるが之は森林地帶と工場との運輸關係とが主要素をなすもので安東にある製材、製紙工場などでは其供給地たる鴨綠江沿岸の近い處は既に切り盡して今では餘程の奥地へ這入り込まぬといかぬらしい、併かも切り跡は全部荒廢させられてある、吉林の製材業は松花江を流して奥地から相當供給を受けてをるが滿洲市場丈けでは製材の販路として不充分だ、製紙工業では硫黄が原料として入用だが之は國内に供給がなく輸入に待たなければならぬが、爆藥取締の卷添を食つて馬鹿に買入れが面倒臭く併かも高いらしい、燐寸工業に於ける軸木の供給は豐富で上海市場邊までも軸木として出てをるさうである。

(ヘ) 周水子のセメント工場はすぐ裏に石灰石の山を持つてをるし又到る處に豐富にあるらしい、又鞍山製鐵所等に鑛滓も相當ある、尤も周水子のは八月中旬には内地と同樣に五割五分の生産制限を受けて居た。

(ト) ガラス工業の硅石（砂）は滿洲にもあるが良質のものを作るには格別一般用としては値段が高いので朝鮮から取入れてをる、曹達灰は無論ない。

(チ) オイルセールは平均品位六%とかで數量は豐富にあるにはあるが外國では品位九%位のものを使つても引合はぬとか云はれているが唯海軍が重油を必ずしも市價に拘泥せずに有利に買つてくれることになつてゐるさうである。

(リ) 鐵礦は本溪湖附近には若干富礦もあるやうだが鞍山のは極めてプアーな上に硅素分があり併かもヘマタイトとかで之をマグネタイトに直さないと選礦が出來ぬらしい、之を五十六%位の普通用ゐられてをる礦石までに品位を高め不純物を取除けるには五、六圓もかゝるらしい、選礦した礦石を運送出來るやうに固めて日本に送る計畫も目論まれて居るが今の處八幡が買つてをる八、九圓見當の値段では到底行かぬらしい、併し將來面白い目論見ではあると思はれます、鞍山製鐵所では今日右鑛石を使用して年二十八萬噸乃至三十萬噸位の銑鐵の生産をなしてをるが之が爲めに投下せられた資金は五千四百萬圓、尤も今では三千五百萬圓位に切り下げてはあるさうです。

(ヌ) 製糖原料ビートの供給は官憲の壓迫其の他で思ふやうにいかなかつたとかで一時粗糖を輸入して精製していたこともあるが今では休止してをる、今後と雖も甘蔗糖の洪水時代に之に對抗してビートでやらうとするのは無理であるかも知れません。

(ル) 葉煙草も一年八十萬貫位は使用されてをるが國内では鳳凰城附近にて約十萬貫、得利寺、鞍山方面で各一萬貫位宛の生産がある丈けで後の大部分は米國葉や山東葉を輸入してをる、外に在來種が

若干出來るが之は巻煙葉にはならない。

(ヲ) 柞蠶の糸は特産として相當あるやうで安東地方では日本から織機を入れて絹紬工場が相當に動いてをりました、更に安東には柞蠶紡績工場がある、大正八年創立せられ關東廳の補助や色々恩典を受けながら引合はないで雨來代を替ふること三回、今日では富士紡が經營してをる。

(ワ) 製麻工業用麻も滿洲で出來る青麻は纖維が非常に弱いとかで麻袋原料としては役立たぬと云はれ關東州の製麻會社は印度麻を仕入れて青麻を三割位混せて仕事をやり(需要の一割を充して居る)奉天のは今休んでをる、折角年四、五千萬枚、價格二千萬圓の麻袋の需要がある事だから何か適當な麻はなからうかと滿鐵農事試驗場も色々と研究はされてをるやうだが今の處見當はついていない、青麻は若干日本へ輸入せられてくゝり紐原料に使用されて居る。

(カ) 皮革は多少の供給はあるやうだが牛皮の如きは所々背及尾の邊に穴があいてをつていかぬとか云はれてをる、最近奉天被服廠で朝鮮牛皮を入れて仕事を初めた、毛皮は可なり産出せらるゝやうだが大體その儘で外國に輸出せられてをる、羊皮は不完全ながら鞣して防寒用に使用されてをる。

(ヨ) 右の外滿洲に現存する主要工業原料としては大石橋附近にマグネサイト及ドロマイトがあり今日では耐火煉瓦原料及建築材料として使用せられてをるが將來金屬マグネシウム原料として使用せられる時代が來るかも知れぬ、アルミナを多分に含んだ粘土が煙臺附近や復州及金州に相當ある樣子で之を原料としてアルミニユームを作らうと云ふ計畫があります、又鹽田も滿洲國丈けで一萬町歩關東州に七千町歩もあり生産方法宜しきを得れば將來增産の見込もあるやうで軍部では之を原料として曹達灰工業を起す計畫がある。

乙　燃料、動力

次に燃料、動力の點に移つて考へて見たい、由來滿洲は撫順炭坑本溪湖炭（以上では八割强）を始めとして石炭の豐富な所であると稱せられてをるのでありまして、撫順の露天掘の如きは實に天下の壯觀であります、而して生産原價も頗る低廉にして山元にて二圓以下とか稱へられてをります、併し滿鐵が販賣する炭價は併かく決して安價なものでない、撫順から距離の遠近により無論同一ではないが大連あたりでは切込炭噸十圓見當でありまして其處から船賃をかけて大阪あたりへ持つて來るよりは却つて高く供給せられてをります、社外炭との競爭のある處ではいくらか安く賣らしてをるやうでありますが大體に於て在滿の工場は日本內地と比較して今日決して安い石炭を使つてをるとは申されません、のみならず冬季が長い爲に隨つて石炭の使用量も多いと稱へられてをります、炭價に付ては色々と需要者側からの苦狀もあるやうですが滿鐵としては一面には附屬地行政を委任せられてをつて之に相當の失費もあるしと云つたやうな關係で簡單に需要者の希望には添へかねてをるやうでありまして、先日內地の新聞に撫順炭の地賣り一齊に引下げ斷行と云ふ見出の記事がありましたが之に依ると

塊炭十一圓五十錢（五十錢引）切込炭九圓八十錢（七十錢引）並粉炭八圓三十錢（九十錢引）と云ふ事になつたさうであります、又電力の如きも之も南滿一帶は滿鐵系會社でモノポつてをつて之も日本内地より相當高價のやうであります。

丙　勞　力

最後に勞力の問題ですが之は實に供給潤澤にして且低廉であります、今日の三千萬民衆を以て不足とするならば山東直隷地方より無限に流れ込んで來る可能性があります、仕事さへあらば彼等は何時でも水の低くにつくが如く、千里を遠しとせずして寢具を荷いで藥罐とバケツとを持つてやつて來ます、而して賃銀は普通男小洋銀七十錢乃至四十錢、女五十錢乃至二、三十錢で長時間の勞働に堪へ得るのであります、不足をいへば盜癖があつて監督を嚴重にせねばならぬとか、女の中では未だに纏足をしてをる爲に長く立つてをることが出來かねるとか、一般に無敎育で注意力が足りないとか、群衆勞働に適しないとか、責任觀念に乏しく又移動率が大きいとかも云ひますが、兎に角安い賃銀で喜んで働きますから此處が資本家のねらはれる一番のつけ目だらうと想はれます、惡口を云ふ人は日露戰爭以來日本が多大な犧牲を拂ひ且一、二億の工業投資までしたがその結論は山東の移民に衣食の料を與へてやつたと云ふ事以外に何があるかとまで極論する人がある、最近に至つて滿鐵の沙河口の車輛工場を初めとして多少日本人勞働者を使つて見られる處もあるやうだが九牛の一毛にも過ぎない、日本人勞働者と支那人勞働者との能率なり製品の出來ばへ等を比較研究して見ると必らずしも日本人勞働者が不經濟ではないと云つてをられる處もあるが、何分にも滿洲で日本人を使ふと勞働者でも何でも普通在滿手當として內地に於て同一業務に從事するときよりは相當多額に拂ふことになつてをるものだから中々それでは日本人勞働者の使用と云ふ事は普及しまいと思はれるが若し內地同樣の賃銀丈けで働くものとすれば必らずしも日本人勞働者が不經濟でもないと云はれる人もある、沙河口車輛工場や大連機械工場等では相當綿密な能率調べがあつたやうだが、滿蒙毛織の調査では支那人のサージ製織能率は日本人の六割しかしないと云ふから紡紗廠では織機を一男職工が二臺乃至三臺位しか平均持たないが（尤も之には機械が舊式に屬する關係や糸の關係もあるが）日本なら女工で四臺乃至六臺は受持つことが出來る、更に勞銀を節約する必要があれば自働織機にすれば日本では十臺以上も持つ、農業移民の奬勵もさることながら工業移民奬勵策はないだらうか、往復の旅費を政府が保證するとか云つたやうな事で在滿特別手當拔きの工業移民は出來ぬだらうか、非常に多額の金のかゝる農業移民よりも寧ろ自然的ではなからうか、話は橫道に這入つたが今日では銀が相當高くなつた爲に勞力費は以前考へられてをつたやうには決して有利ではない事は慥かであります。

七、將來に對する豫測と軍部の計畫

以上申述べました所は大體少くとも過去に於て滿洲が工業を營むには不適當な土地柄であつたと云ふ事に盡るのでありますが併し將來に於ても永久に不適地なりと斷定するのは或は輕卒に失する嫌がありませう、先きに申述べた外部的條件と云つたやうな事でも凡てが恒久的なものではなく農業等の發達と共に漸次に改善せらるゝものであり、又中には工業の發達と相互に因果關係をなし工業が發達すればそれに伴つて自然と外部的條件も改善されて來ませうし內部的關係と云ひますか經營の直接要素も將來新たなる資源の發見其他方策宜しきを得るに於ては相當改善の餘地もありませうし、從來は凡てが全く自然の狀態に放任せられてあつたのでありまするからして將來滿洲國の基礎確立すると共に產業政策宜しきを得るに於ては決して悲觀すべきものではないかも知れません、兎にも角にも滿洲國に於ける今日の產業界は日露戰爭前後よりして僅かに過去四半世紀の間に發展したるものなるの事實に想到するときは强ち斯く想定することの荒唐無稽ならざる事を知る事を得るのでありまして殊に滿洲に於ける石炭の埋藏量の豐裕なることは——寧ろ撫順、新邱等條件のよい炭坑があると云つた方が適當かも知れぬ——工業界の將來に對して其の發展を約束するものであるとも云ふことが出來るので石炭を主要素とする硫安工業や石炭液化工業の如き重要事業が未知數として前途に橫はつてをり、又銑鋼一貫作業としての製鋼事業も現に當面の問題として論議せられてをり曹達工業の如きも計畫せられてをるやうでありますから、工業發達の順序としては逆であるが是等基礎工業が初めに發達完成すれば之に隨伴して將來何時かは全然今日とは面目を一新する時代が實現しないとは恐らく誰しも斷言する事を得ないのでありませう。

茲に軍部の工業計畫を御報告申し上げて最後に貿易事情を一言して結び度いと思ひます、該工業計畫は日滿產業統制に關する大方針が相當に强く織り込まれてをることは注目すべき點で又一面國防上の政策が濃厚に現はれてをることは當然でもありませうが曩に述べた張燕卿の演說とは大分趣を異にしてをるやうであります。

(イ) 滿洲工業計畫の根本方針としては日本內地工業との競爭を避け日滿兩國品にて外國品を驅逐する事。

(ロ) 工業經營は許可主義をとることゝし中國防上の見地よりして日本側資本にてやりたいもの
製鐵業、炭坑業、特殊鋼、オイルセール業、アルミニユーム、マグネシユーム、曹達工業、硫安工業、石炭液化、兵器工業
其の他の事業につきては日本人又は日滿人合辦、機會均等の意味よりして場合に依りては外國人にも企業を許可する方針。

(ハ) 度量衡はメートル式に決定、工業品規格は日本のを全部踏襲する。

(ニ) 五つの工業地域を豫め設定する。

奉天及其の附近（撫順、鞍山を含む）
大連及其の附近
安東及其の附近
哈爾賓及其の附近
吉林省のある地點（主として木材工業の關係より）

（ホ）動力問題、電力は滿洲國々營か又は國家管理の下に服する特殊會社の企業にする、何れにしても工業用電力は最高統制機關にて管掌する。

奉天工業區域に對しては不取敢撫順にて十萬キロの火力發電をする。

大連工業區域に對しては復洲炭を使用して發電したらとも思ふ、是等電力間に於ては固より彼此流用する事の出來るやうにする、料金は使用量に依りスライヂングスケールにて奉天區に對しては最低五厘最高は日本の平均値より少し下値に置く積り。

（ヘ）兵器工業は奉天兵工廠を利用し十一月頃より初める（既に會社成立したる旨新聞にて見た）日本駐屯兵の彈藥類、支那側の兵器、民需火藥の製作をなし漸次鐵管、ガス管、度量衡器（一部は日本へ注文する）、農具、鑛山用具、ラヂエーター等の製作に著手し經濟を維持する事とする。

大體兵工廠を使用すると年生產額四百萬圓位なければペーせぬのでその時の使用職工數は千八百人

位になる。

因に兵工廠は大正十五年創立せられ爾後一億三千萬元の資金が投下せられたと稱せられてをる、敷地も七十萬坪大阪造兵廠の三倍位のもので一萬三千人の職工を使用していた、軍部では時價二千萬元に見積つてをる。

（ト）自働車工業は日本より部分品を輸入し滿洲にて組立てること〳〵する、尤も日本にてやらぬなら兵工廠にてやりたい。

（チ）製鐵業、鐵の輸出に對しては稅金を撤廢させる。

（リ）アルミニユーム工業、煙臺（四十四萬屯ある）復洲、金洲に產出する、將來五、六十年の使用分はある、アルミニユーム生產能力は一萬二千噸とするも初めは四千噸計畫にて進む、目下鈴木式を滿鐵にて半工業的試驗をされてをる、因に發電所の電力は主として鞍山とアルミニユーム工業にて使ふ積り。

（ヌ）ガソリン補充問題、今の設備にてオイルセールより十萬石はとれるも將來第一案としては現規模を擴張して四萬屯の重油をガソリンに化する計畫なるも巨額の經費を要するを以て當分エコノミカルユニユットの程度に止める。

之と併行して石炭液化の試驗をも進めてゆく。

(ル) 曹達工業、五萬屯位の能力にて作りたい、工業鹽の方も追つて片づくことになつてをる。
(ヲ) 硫安工業も計畫中で之は一面には水素やアンモニヤを使ふ工業を起す爲にも役立つ。
(ワ) 火藥は兵工廠に現存する設備を中心とし安東の現存工場と聯合して作る、硝酸は當分は內地より買入るゝも將來は滿洲にて作る、硝石と硫黃は目下專賣制をとつてをるが爆竹が家內工業にて作られてをるが將來銃砲火藥取締法を作る必要を認めてをる。
(カ) 右工業中着手の順序として兵器會社を先きに作つてアルミニユーム、硫安に進む。
(ヨ) 工業試驗機關、差當り滿鐵の中央試驗所等の機關を利用し後には之を獨立の財團法人に直す。
(タ) 地質調査は初め滿鐵の地質調査所を利用し追つて日滿政府の共有となし結局は滿洲政府に引つぐ尙ほ資源調査費として六十五萬圓位を支出する豫定。

八、滿洲貿易事情

最後に滿洲の貿易事情に付て述べて見たい、滿洲が直接世界市場と經濟的接觸を始めたのは一八五八年の英淸天津條約の結果遼河々口の牛莊が開港場として指定せられてからであつたが一八六一年頃の外國船舶の入港したものは僅かに三十四隻と謂はれてをる、其の後一八七二年の貿易額は五百三十七萬兩と稱せられてをるがその大部分は沿岸貿易であつた、一八九九年露國が前年淸國より租借權を

得たる遼東半島の尖端大連港を自由港として開放し一九〇三年（明治三十六年）に至り東淸鐵道及英國資本に依る關外鐵道とが略時を同じくして開通してより滿洲は急テンポを以て世界經濟市場に結び付いたのである、殊に一九〇八、九年の頃日商三井物產及露商ナタンソン氏が滿洲特產大豆を歐洲市場に紹介した事實は之に其の實質的內容を與へたのであつて、爾來貿易額も逐年增大し海外貿易額は一九〇七年一一五、〇〇〇千兩に對し一九三〇年には約七〇〇、〇〇〇千兩、實に七倍弱の發展を示し昨年度は輸出四七三、〇〇〇千兩、輸入二一八、〇〇〇千兩、計六九一、〇〇〇千兩となつた、而して滿洲貿易の特徵として注意すべきは常に輸出超過と云ふことであつて（最近一億兩前後）之等超過額中華商又は苦力が支那本國へ持ち歸へるのも相當あるし又日本へも投資利息其他として相當額來てをるではあらうが其の一部分は滿洲住民の生計を培ふ糧であつて、滿洲の人口は一九〇八年の千七百萬人に對し一九三〇年は實に三千萬にも增加してをる。

滿洲の日本對貿易額は從來滿洲貿易總額の三割乃至三割五分見當を占め首位に在つた、昨年は輸出（滿洲より見て）一億五千九百萬海關兩にして總輸出額の三割四分を占め、輸入は八千七百萬海關兩にして總輸入額の四割を占めた。

日本に次ぐは支那にして昨年の對支輸出は一億四千七百萬海關兩、輸入は六千六百萬海關兩でありまず、今年に入りてより滿洲の貿易額は著しく增進し居る模樣で全體に就ての統計は判明し居らざる

も滿洲貿易の六割見當を占むる大連の貿易統計に依るも本年一月以降九月迄の輸出二億二千七百萬圓にして昨年同期に比し五割三分の增加輸入一億三千七百萬圓にして昨年の同期に比し八割七分の增加である、殊に最近に於ける輸入の增進目覺ましく九月の如きは增加率昨年同月に比し十八割に達した、右の增加は主として日本よりの輸入增加に因るものにして之が原因は(イ)事變以來支那官權の排日手段の除去されたること、(ロ)事變以降支那と滿洲との取引著しく阻碍さるゝに至りたること、(ハ)銀價の恢復したること等あるも、最も大なる原因は日本圓價下落に因る輸入品價格の低落に負ふものであります。

前述の如く我國の對滿輸出は最近著しく好轉しつゝある處、今後に於ても此の傾向は持續するの見込あるのみならず左の如き理由に基き一層發展の餘地ありと思考せられます。

(イ) 圓價下落に基く我輸出品の對外價値下落の狀態は今後も當分繼續すべきこと。

(ロ) 從來滿洲市場に於て我商品の最大の强敵は支那品なりし處本年九月二十五日より支那品は外國品として取扱はれ新に輸入稅を課せらるゝことゝなりたるを以て其の競爭が減退したること。

(ハ) 從來我商品は滿洲に於ても支那官權の爲不當課稅を受け或は之が取扱商人を壓迫する等の方法に依り直接間接に其の進出を阻止され居りたる處今後は此等の障碍が除かるべきこと。

(ニ) 現在は匪賊の關係にて都會地と奥地との取引圓滑ならざるも今後治安の維持さるゝに從ひ奥地に對する我商品の販路を開拓し得べきこと。

(ホ) 張學良時代には滿洲の一般民衆は重稅の取立、不換紙幣の濫發等の方法に依り極端なる搾取を受け購買力激減し居りたるも今後は此等の惡弊除かるゝのみならず漸次福利增進の途講ぜらるべければ一般の購買力增進すべきこと。

商品に就て云へば煙草、石油、麻袋（以上三品の輸入額約三千萬海關兩）等少數の我國に生產せず又は我國に輸出がなきものを除けば其他の商品に付ては何れも我國より進出の餘地大いにあり、現在の我對滿輸出額を二倍見當にし總輸入額の七、八割を占むることは左程難事ではなからうと思はれます、卽ち我國は約一億圓見當の輸出增加を期待することを得るだらう。

次に我國より輸出增進の見込ある商品の中殊に有望なるものを擧ぐれば左の如くである。

綿糸布、麥粉、砂糖、鐵材、機械類、電氣器具類、人絹織物、毛織物、海產物、罐詰類、地下足袋、時計、化粧品、帽子、其の他雜貨類

尙地方的に見れば北滿地方は南滿地方に比し一層我商品進出の餘地大である。

將來滿洲國海外貿易の發展殊に日滿兩國間の貿易振興策としての色々の手段を想像されるであらうが、就中最重要事であつて且至急着手する事を要する事柄は滿洲國の關稅の整理である、而して其の指導的原理としては自由貿易主義であらねばならぬと思ふ、蓋し滿洲は前にも述べたるが如く現に純

然たる農業國であつて未だ外國よりの競爭に對して保護を與ふる事を必要とする程の工業もないからである、若し强いて內地工業を育成せんが爲に保護主義を取るが如くんば徒らに三千萬民衆の大部分を占むる農民に對しその需要品の高物價を强ゆることゝなり決して策の得たるものではなからうかと思はれる、滿洲に於ては洵に冒頭引用したる實業部總長の言の如く何よりも先づ農業其の他原始產業の改良發達に努力すべき時代であつて、不取敢是等從業者の哺育こそが目下の急務であらねばならぬと思ふ。

而して日滿兩國間に於ては關稅同盟乃至は特惠制度等も想像せられざるに非ざるも是等は國際關係上實行困難なるべきを以て或は現行協定の補修若くは日滿間貿易品の性質を逐一考慮し特に兩國に取つて好都合なる一般關稅率を定める事が考へられるだらうと思ふ、關東州の稅制改正も同時にやる事は勿論である、斯くして日滿兩國間に於ける事實上の單一經濟グループを實現すべきであつて、これこそが所謂眞の日滿經濟統制でなくてはならぬ。

巷間日滿經濟統制論を說く者其の根據區々なるが如きも滿洲と日本とは一は農業國であり一は工業國であつて遠く將來のことはいざ知らず現在に於ては相提携して行くには根本的に何等の矛盾なく正しく好都合に出來上つてをるのではなからうか。

現に日本は滿洲農產品の最大の仕向地であづて尙ほ將來滿洲國が產業政策を確立し工業原料品の改良增產に着手するとせば我國に於て目下海外よりの輸入に待つてをる各種の原料品をば滿洲品により て置き替へることが出來る見込のものは相當多數に存在してをるやうに思はれ尙ほ我國輸出入貿易總額中滿洲の占むる割合は一割內外を示してをる。

九、本邦工業の利用し得べき資源

滿洲國の資源に就ては可なり世上にも喧傳せられ居りますから、自然耳新しいことは何も無いかも知れませんし又一應は前段に於て各種工業原料品の現狀についても述べて置きましたので、或は重復の點もありませうが、滿洲資源中本邦工業の利用し得べきものに就き最後に一言申し上げたいと思ひます。

本邦は綿花、羊毛を始めとして多種雜多の工業原料を世界の各地から輸入利用して居りまして、其の額每年十億圓にも達して居ます、若し滿洲國に於ける所謂資源中之に相當するものが多數あつたならば日滿經濟統制上から申してこの上もないことであります。

然るに遺憾なことには現在折角の資源の利用を一般的に妨げて居る大障害があります、夫は前にも一言した滿洲國の輸出稅の制度であります、之は勿論歲入の關係も有らうが工業原料の如きは日用品と違つて一錢二錢を爭つて安いものを求める必要がある、特に本邦は四面環らすに海を以てし安い海

運を利用して世界の如何なる地方からでも望む儘に廉價な工業原料を輸入し得る地位にあり、更に最近は世界的物資の洪水に依つて工業原料の如きは自由自在に撰擇取得し得る狀況にあるから滿洲國資源の利用上輸出稅の如きは速かに廢止せられねばならぬものと思はれます、尙ほ前にも述べた如く滿洲の資源は從來放任せられていたものが多く、中には未だ調査もされてないものもあるやうで、之が開發利用は尙ほ幾多將來の助成的施設に專ら待たなければならぬものが多いやうに思はれます。

イ、鑛　産　品

之は種類は限られて居りますが數量は仲々大したものがある樣であります、就中石炭及鐵鑛が勝れて居ります、前者は既に利用されて居りますが後者は之からであります、我邦は毎年百五十萬屯千二百萬圓の鐵鑛を南洋、支那本土等から輸入して居ります、其の幾分でも將來滿洲國から輸入出來れば本邦製鐵業の基礎もそれだけ强固になる譯で極めて望ましい次第であります、其の他耐火粘土、マグネサイト、ドロマイト等も多量の埋藏量がありますが現在では大して利用の道はなく、實際に於て利用され得る限りは既に利用されて居ります、其の他細いものに就ては現に專門家が調査中であります から夫に讓ります。

ロ、農產品及畜產品

農產品は滿洲產業の大宗であつて其の經濟力の依つて生ずる根幹でありますから成るべく多量に之を購入して經濟力を豊かにし生計に餘剩を生せしめ民衆の購買力を作ることが本邦製品の販路を開拓する上に最も必要であります。

然るに同じ農產物でありますから、物によりましては之を無制限に購入することは本邦農業と衝突します、米、小麥などが其の例であります、大豆、高粱の如きも一部衝突しないでもありません、如斯は宜しく最高統制機關の如きものを設け或は一定數量を限り或は用途を限定する等の方法に依て本邦農業を脅威せざる程度に於て最大限に利用する必要があります。

大豆の如きは目下關稅の作用によつて既に殆ど遺憾なき迄に利用せられて居り其の額多い時は五十七萬噸六千萬圓、昨年度は五十五萬噸二千八百萬圓に上つて居るのであります。

然るに高粱の如きは工業原料としては殆ど利用されて居りません、唯今輸入致して居るのは飼料としてのみであります、高粱は適當に之を處理するときは澱粉中最も優良なコンスターチに匹敵する澱粉を作ることも出來ますし、發酵工業に於て燒酎、アセトン、ブチルアルコール等の原料にもなります、目下本邦は澱粉又は其の原料として玉蜀黍、カツサバルート、タピオカ、碎米等を輸入利用して居り之に小麥の一部澱粉となるものを加へると年額一千萬圓にも及びますから本邦農產品に脅威を與へざる範圍に於て之等のものに置き換へるときは相當利用の餘地がある樣に思はれます。

玉蜀黍は大部分飼料として、一部澱粉原料として輸入して居りますが、澱粉原料としては品質が南

洋、アフリカ産のものに比し著しく劣り從つて値段も最も安い、之などは農法の改良によつて將來滿洲國富源の一となり得るものであらう。

小麥は主として北滿に産出しますが現狀に於ては國內製粉工場の需要を充すのが關の山で輸出の餘力などはありません、之が本邦製粉工場の原料となる日は尙遠い將來だらうと思はれますが望みがない譯では無論ありません。

次に現在既に利用せられて居り尙將來産額の增大を豫期し得るものに落花生、胡麻、麻實、棉實、ヒマシ、蘇子等の採油用種子があります、其の外亞麻仁なども栽培に適して居りますから將來は利用し得る日がありませう、之等は何れも內地に不足し或は無いものでありますから其の利用は奬勵すべきものであります。

現在はないが將來出來る日を待つて利用し得るものにはホップ、米國種葉煙草などもあります、尙天産物ではありますが蒙古の甘草が現在でも利用せられて居ります。

纖維原料で現在利用し得るものは柞蠶系及同屑、大麻、靑麻位のもので之等の內柞蠶系の如きは現在でも大に輸入使用せられて居ります、今後は進んで繭や屑も大に利用したいものであります。

大麻は數量が少いから現在では大したものではありません、靑麻は纖維脆弱で麻袋用として同地で

利用するには好適でありませんが、內地でもつと適當な用途を發見して之を利用する樣になれば栽培高を增加せしむる餘地は大にある樣です。

之等に比して日本として最も重要なものは何としても棉花と羊毛とであります、之等が將來滿洲から供給せられる望みがあればそれだけでも大したものです。

棉花は現在奉山線から遼陽に至る勃海沿岸地方に在來棉が栽培せられて居り、大部分中入綿とし一部紡績原料として使用せられて居ます、品質は相當優良なものですが收量の非常に少いもので、從て總產額も少く紡績原料棉は大部分は輸入に俟つて居る現狀です。

而して在來種を栽培する限りは各種農作物中最も不利な作物の一ですから農家も止むを得ず栽培する程度で作付反別の增加などは到底望まれません、そこで奉天實業廳などが率先して朝鮮產の陸地棉種子を購入して來年度からでも栽培を奬勵し、一は農家の收入を增加せしむると共に綿花の自給をやり度い考で進んで居りますが何分費用の出場がないので當惑して居られる樣です、陸地棉栽培の有望なことは關東州の試驗で實證せられて居り、有利な作物として農家が競て栽培する樣になれば將來一億乃至一億五千萬斤位は裕に出來る餘地がありますから、滿洲自體の消費を引去つても相當量の輸出を爲し得るに至り本邦紡績業を利する日が來ないとも限りません、又さういふ風に導いて行く必要があります、それには本邦の綿業者が其の豐富な財力を以て實業廳邊の計畫に參加し實力を以て之を援

助してやることが最も捷徑と考へられます、奉天當局もこの事を切に希望して居るのであります、羊毛に至つては其の地域が棉花の樣に限られないものでありますから、今後のやり方次第では一層有望です、現在羊を飼つて居るのは主として蒙古人で、漢人は奉山沿線を除いては餘り飼養しません、從つて交通不便の奥地に多く居るのでありますから種の改良をするにしても現狀に於ては容易なことではありません。

之は素人考へかも知れませんが先づ現在牧羊の習慣をもつて居る奉山沿線卽ち遼西一帶の地方に目を着けて其の地方に居る羊種を專念改良することであります、恰も關東州の豚種が同地領有二十年の今日全然改良されてしまつて舊式の所謂遼東の豚を見掛けない樣になつた如くすることであります、種が改良されて毛質も優良なものになり毛量も增加し農家の副業として甚だ有利なものであることが其の地方で實證せられることになれば、既に養豚の習慣のある漢人種のことでありますから次第に他の地方に傳播し遂には全滿洲に飼育せられる樣にもなりませうが、さうなれば實に大したものであります。

奉天實業廳に於ても多分同じ考へからでありませう、既に乏しい財政の中から滿鐵の公主嶺試驗場で出來た二回雜種（メリノと在來種との）を購入して農家に分配して居ります、私共も汽車の窓からではありますが二回雜種の混入した羊群の遊んで居るのを數回目擊致しました、之なども日本羊毛工業會邊が奮發して援助してやれば、早く改良も出來目的達成の期を早め得るだらうと思ふのであります。

畜產品では其の外羊毛皮、山羊皮、豚毛、獸骨等があり其の外には畜產品ではありませんが山野で採れる野獸の毛皮があります、この毛皮は現在では多く原皮の儘アメリカ、歐洲等へ輸出されて居ります、之などは將來本邦鞣業の大に利用すべきものではないかと思ふのであります。

ハ、林　產

日本は山林面積六割にも及びながら尙年々多額の木材をアメリカ、カナダ、ロシヤ、南洋等から輸入して製材原料に供して居るのであります、其の多い時は年額一億圓にも上つたことがあり、昨年の如きも四千萬圓を越えて居ります、其の全部が必要なる輸入とは考へられませんが內地檜太材丈では多少の不足があることは確かでせう、依つて可然統制機關の統制の下に不足分を滿州から入れることは望ましいことで、今後は交通機關の完備に伴ひ次第に利用し得ること、考へられます、先づ吉林省の松花江流域、牡丹江流域が開發せらるゝことゝ信じますが材種は製材用及パルプ製造用の針葉樹、製材用及マッチ製造用濶葉樹何れも多量に存するもの、如く、處女林として混生して居りますから各種の材種を同時に切り出すことが利益のやうであります、又さうしなければ後が組めないさうであります。

滿洲木材が今日迄鴨綠江、豆滿江のものが多少輸入されて居つた位で他は吉林製材所が松花江材を僅か許り加工して居た程度に止つたのは一は政治上の理由と他は運輸機關の無かつたことに原因して居ります、それだけに鴨綠江材の如きは既に有利な地域は切り盡した觀がありますが松花江、牡丹江流域には到る處に處女林が密生して邦人の利用を俟つものゝ如くであります。

之は林產物ではありませんが滿洲には柳行李用の杞柳が到る處に植えられて居りますが特に新民屯附近は地味が適するものか一面に茂つて居り、毎年相當量の枝が切り出されて居ります、之なども內地の杞柳の不足する樣な場合には大に利用したらよからうと考へられます。

ニ、工　產　品

工產品中本邦工業の利用し得る最大のものは食鹽でありませう、現在關東州內に於て二十五萬噸、州外三十萬噸の產出あり其の內十萬噸位は既に利用せられて居りますが、本邦工業用鹽の需要は最近頓に增加して參り明年度は約五十萬噸にも上りませう、現在の狀態では關東州十萬屯、青島十五萬屯合計二十五萬屯は充づ當てに出來るとして殘り二十五萬噸は遠くアフリカ以西に求めなければならない狀態であり安定を缺いて居ります、若し此の不足量を滿洲より求めることが出來ればよりに越したことはありません、關東州當局に於かれては此の趨勢に著目せられ目下折角鹽田の擴張による生產額の增加と製鹽法の改良による品質の改善及生產費運搬費の低下を企てられ著々進行中であります。

滿洲國側の鹽業は今日迄自給自足の域に止り輸出等といふことに就ては考へられたことも無いのでありますから、從つて舊法を墨守する地方的の特殊產業に過ぎず、現狀では如何ともすることが出來ないのでありますが、鹽田の相貌は關東州などに比較しては數等優つて居り特に蓋平地方の如きは青島にも匹敵すべきでありませう、勿論本邦工業の要求する品質優良にして廉價なる食鹽を多量に生產する爲には相當大なる資本を投下しなければならぬのでありますから早急に之を利用することは困難であり、先づ關東州を開發した上でなければ之に著手する資本家も無さうでありますが、其の將來は治安の回復と共に洋々たるものゝあることは本邦工業の爲にも慶賀すべきことであります。

次に之も既に一部利用せられて居りますが撫順のシエールを乾餾して得らるゝシエール油がありますが、其の一部は粗製パラフインとして輸入せられ精製パラフインに加工せられて居りますが、他の一部は重油として輸入せられ其の儘貯藏せられて居ります、之は加工すれば立派にガソリンが採れるのでありますから將來は產額の增加と共に其の方面にも利用せられる樣にもなりませう。

銑鐵は現在既に輸入加工せられて居りますが現在計畫中のものに尙粗鋼材があり、其の他滿洲製鐵業の發達に當然伴ふべきベンゾール、トルオール、ナフタリンの如き有機原料も本邦精工業の最も切望して居る材料であつて多々益辨ずる次第であります。

大豆の加工品たる大豆油は關稅のかゝる關係から今日迄は全く利用せられて居りません、處が內地

で出來る大豆油は食用本位ですから品質が優良な代りに價格が高く工業用原料にはなりません、從つて滿洲から安い大豆油を輸入した處が之を工業用原料に供する限り內地の大豆油業を妨害しないのでありますから何とか便法を開いて大に廉價な滿洲產大豆油を利用し度いものであります、因に滿洲產の大豆油は或る時期に於ては原料大豆と値が逆ざやになることがあります、故に斯ういふ時期をねらつて買へば可なり安いものが手に這入るのであります、斯ういふものは大に利用しなければならぬものだと思ひます。

最後に製紙用パルプがあります、之は現在鴨綠江製紙會社のものが些か許り輸入使用せられて居りますが同處には現在以上の生產は期待出來ません、將來の供給は交通機關の發達に伴つて牡丹江、松花江沿岸に企業せらるべきパルプ工場の製品に俟つことになりませう、我邦は昨年十萬屯一千萬圓のパルプを輸入して居りますが製紙工業、人絹工業の發達に伴ひ漸增すべきものですから其の供給に關しては之を近くの滿洲國に求めることが最も便利だらうと考へるのであります。

PATENTED NO. 119016

CAT. NO. 853

"F-M"

PAMPHLET BINDERS

are carried in stock in the following sizes

Catalog No.	High	Wide	Thick
851 (菊倍)	30. cm.	x 22.5 cm.	x 1 cm.
852 (四六倍)	26. ,,	x 18.5 ,,	x 1 ,,
853 (菊)	22.5 ,,	x 15. ,,	x 1 ,,
854 (四六)	18.5 ,,	x 12.5 ,,	x 1 ,,
855 (特)	24. ,,	x 15. ,,	x 1 ,,

Special sizes are made to order

Library Supplies in All Kinds

F. MAMIYA & CO

OSAKA·TOKYO·FUKUOKA